

セクハラよりも多い？
女性と子どもを傷つけるマタハラの実態

マタハラとはマタニティーハラスメントの略語です。働く女性が妊娠・出産を理由に職場で受ける精神的、肉体的な嫌がらせ行為を指します。このマタハラが原因で仕事を辞める人もいれば、流産をしてしまう人もいます。妊娠中や産休明けに「心ない言葉を言われた」「残業や重労働などを強いられた」などさまざまな被害を訴える女性が増加しています。今やマタハラは女性の社会進出に伴って出現した社会問題の一つとなっています。

日本労働組合総連合会が2013年に行った意識調査によると、マタハラを受けたことがあると答えた女性は、25・6%に上り、なんとセクハラを受けたことがあると答えると答えた女性(17・0%)を上回る結果となっています。さらに厚生労働省の報告では、妊娠・出産などを理由とした解雇などの不利益な取り扱いを受けたという労働局への相談件数は、2004年度には875件だったのに対し、2011

1年度には3429件と急増しています。

では、マタハラがこれほど増加している原因は为什么呢。か。先ほどの調査によれば、その原因の1位には「男性の妊娠・出産への理解不足、協力不足」が挙げられています。続いて2位「会社の支援制度設計や運用の徹底不足」、3位「女性社員の妊娠・出産への理解不足」となっています。

男女雇用機会均等法では、妊娠・出産、育児休業を理由とした不利益な扱いを禁止しています。会社全体としてはもちろんのこと、男性・女性個人としても、妊娠・出産、そしてマタハラという問題について理解する必要があります。男性は女性をケアし、女性はハラスメントから自分を守る術を持たなければなりません。

また、妊娠している女性を傷つけることは、新たな命を奪う可能性もあるということを、絶対に忘れてはいけません。

〈他人事じゃない!? 怖~いトラブル〉

消費生活のお話

秘書広報課広報広聴係 (内線186)

突然の電話にご注意を

〔事例1〕

「あなたの個人情報が出ています」と公的機関の職員を名乗る者から電話があった。「流出した情報から財産を守るためには、預金の移動が必要だ」と言われ、指定された口座にお金を振り込んでしまった。

〔事例2〕

「老人ホームの入居権が当たった」と電話があった。「身に覚えもないし必要ない」と答えたが「ほかの入居希望者のために名義を貸してほしい」と持ち掛けられたため、了承した。しかし、後日「名義貸しは罪になる」と別の者から電話があり、結局お金を脅し取られてしまった。

こういった詐欺には、電話が使われるケースが非常に多いです。中でも複数人が登場する劇場型詐欺と呼ばれるものは非常に手口が巧妙です。一人暮らしの高齢者がトラブルに巻き込まれていないかなど、周りの人の見守りが大切です。

少しでも不安に思ったらご相談ください。

消費生活相談窓口

日時 月～金曜日・午前9時～午後4時(予約優先)

場所 市役所1階 広報広聴係

※相談には、できるだけ契約者本人がお越しください。

